グループ学習での教師 支援に向けた議論解析

澄川靖信*, 高田 彰一**, 一ノ瀬 晃***, 村上 有弘**, 豊野 勇紀**,池尻 良平****, 逆瀬川 愛貴子****, 関根 薫*****, 山内 祐平****

- * 拓殖大学
- ** Ddrive 株式会社
- *** First Torrent 合同会社
- **** 東京大学
- ***** 東北大学





グループ学習はより高度な学習に効果的であることが示されている。

- 新学習指導要領では主体的・対話的で深い学びが重視されるようになっている。
 - これまで以上に効果的なグループワークをどう実施するかが重要になっている
 - OECDも重視している

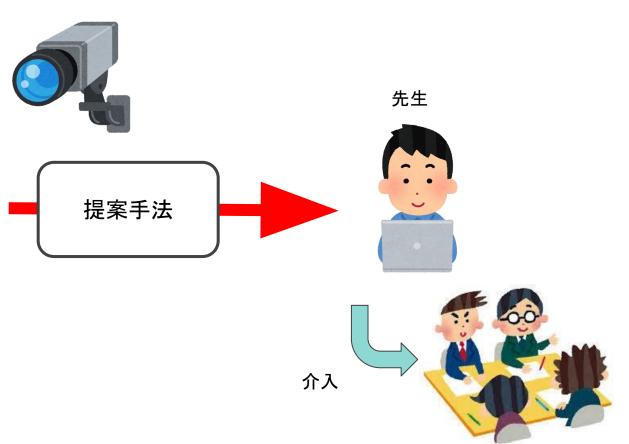
オンライン学習でグループ学習をする場合はブレイクアウトルームのような機能を使う

- この機能はグループメンバー以外は参加できないように制限できる
- 教師がモニタリングするのは手間がかかる

目的







議論を適切に進行させるた めの支援が必要なグループ

教師用システムイメージ

GAIL Teacher App



背景丨関連研究

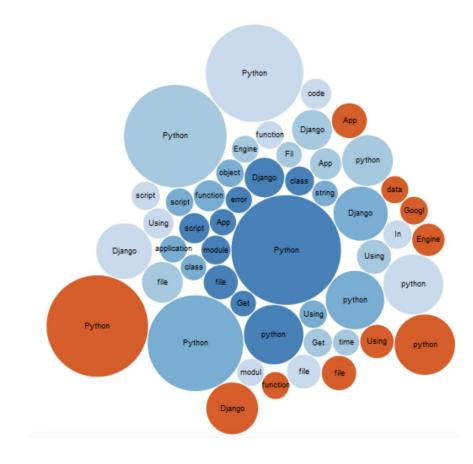
学習者の議論テキストをLDAの

トピック構成単語で可視化

目的:教師によるフィードバックの支援

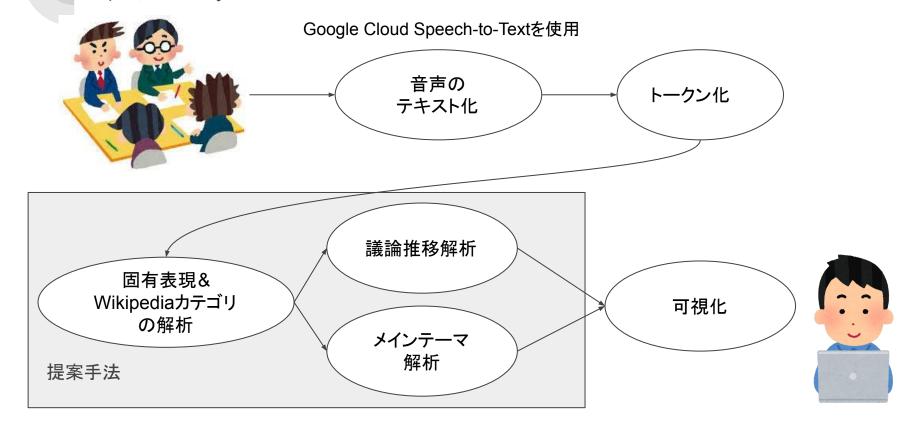
≠ 介入すべきグループの発見

→ 本手法と併用可能



Taoufiq Zarra, Raddouane Chiheb, Rdouan Faizi, and Abdellatif El Afia. 2018. Student Interactions in Online Discussion Forums: Visual Analysis with LDA Topic Models. In LOPAL '18. Association for Computing Machinery, Article 30, 5 pages.

アルゴリズム



固有表現&Wikipediaカテゴリの解析

目的:解析する単語を取得

- 固有表現:テキストそのものを解析するため
 Google CloudのNatural Language API*1を使用
- Wikipediaカテゴリ:テキストの意味を解析するため
 明示的意味解析(ESA)*2を使用

*1: https://cloud.google.com/natural-language?hl=ja

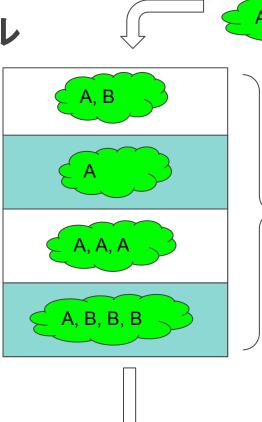
*2: https://cogcomp.seas.upenn.edu/page/software_view/Descartes

議論推移解析

仮定:議論の内容は時間の経過と共に変化する

- 1. キューモデル
 - 直近のテキストだけを解析
- 2. メモリモデル
 - 繰り返される単語を解析

キューモデル







A: 6

B: 4

一致率(x)を計算

指定の範囲内:問題ない

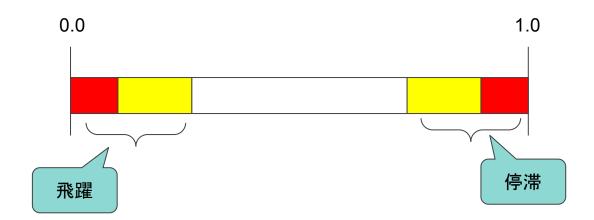
範囲外:問題あり(色付け)

一致率(x)の計算:Jaccard係数

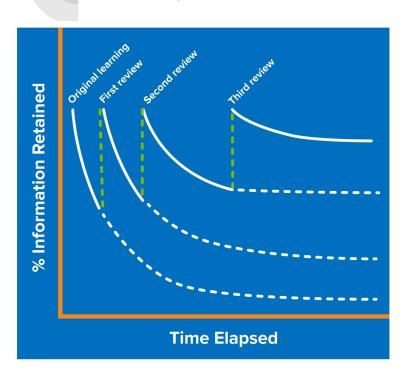
新しいテキスト:A,B,C

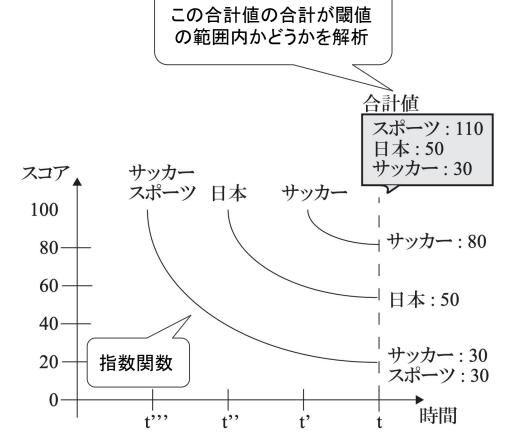
過去のテキスト:A,B

一致率:2/3 = 0.666



メモリモデル





忘却曲線

メモリモデルのイメージ

メインテーマ解析

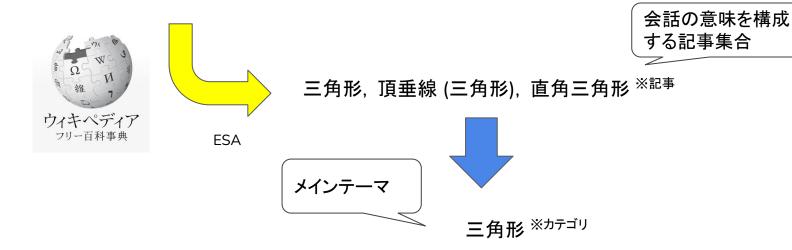
目的:どんな会話をしていたのかを先生がすぐにわかるように支援

Wikipediaカテゴリで近似解を取得



Wikipediaカテゴリから話題の分析

会話の例: このまっすぐに線を引いたら三角形三つの三角形ができる





Q Wikipedia内を検索

メインページの改定に関して意見・要望を募集しています。

三角形

[非表示]

ジ先頭

· 定義

形の種類

の位置ベクトル

ページ ノート

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia) 』

← この項目では、図形について説明しています。文字については「三角(記号)」をご覧ください。

三角形(さんかくけい、さんかっけい、拉: triangulum, 独: Dreieck, 英, 仏: triangle, (古風) trigon)は、同一直線上にない3点と、それらを結ぶ3つの線分からなる多角形。その3点を三角形の**頂**点、3つの線分を三角形の**辺**という。

カテゴ!: 三角形 加等数学 | 数学に関する記事

カテゴリ「三角形」にあるページ

このカテゴリには 71 ページが含まれており、そのうち以下の 71 ページを表示しています。

* 一角形

C

お

Circumgon

う ヴィヴィアーニの定理

え • 鋭角三角形

オイラー線 • 黄金三角形 • 17点3次曲線

シュタイナーの内接楕円

シュタイナー楕円

シュタイナー・レームスの定理

白川の定理

व • 垂心

スチュワートの定理

tt 正三角形

た

高田の定理

は

• ハーコートの定理 春の大三角

71

ピタゴラス数 ピタゴラスの定理

フェルマー点

藤村の三角形問題

冬の大三角

ブロカール円

ブロカール点



Q Wikipedia内を検索

メインページの改定に関して意見・要望を募集しています。

三角形

[非表示]

ジ先頭

· 定義

形の種類

カテゴリを説明する文章とみなす

ページ ノート

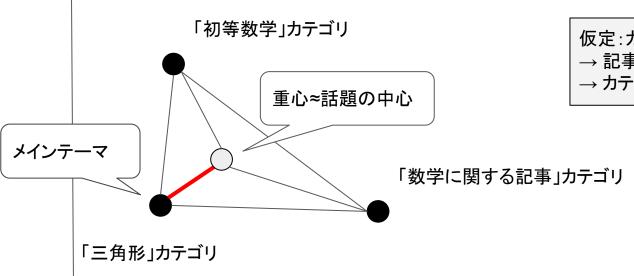
出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia) 』

≪ この項目では、図形について説明しています。文字については「三角(記号)」をご覧ください。

三角形(さんかくけい、さんかっけい、拉: triangulum, 独: Dreieck, 英, 仏: triangle, (古風) trigon)は、同一直線上にない3点と、それらを結ぶ3つの線分からなる多角形。その3点を三角形の**頂**点、3つの線分を三角形の**辺**という。

カテゴリ: 三角形 | 初等数学 | 数学に関する記事

Wikipediaカテゴリから話題の分析



仮定:カテゴリは記事の内容を表す

- → 記事は会話を意味を構成する
- → カテゴリは会話内容を表す

評価

以下の2種類のテキストを対象に有効性を解析した

- 1. 新聞記事(W2Eデータセット)
 Topic detection and tracking(TDT)用のデータセットを用いた
 本稿では一つの出来事に対する各報道社の新聞記事を、その出来事に対する各社による議論とみなした。
- 2. 小学校の実際の授業での会話テキスト

評価結果 W2Eデータセット

Wikipediaの1,781もの出来事テキストを使用

- キューモデル・メモリモデル共にほぼ同じ結果
- **適切**に推移しているテキストの97%を正しいと解析できた
- **不適切**な会話データは100%を不適切と解析できた
- メインテーマ解析の正解率も70%
- 比較対象(LDA、TDTの先行手法):2つの解析での正解率は30%程度

詳細は以下の国際会議論文とEIM論文で報告済み

Sumikawa, Y., Takada, A., Ichinose, A., Murakami, A., Toyono, Y., Ikejiri, R., Sakasegawa, M., Sekine, K., Yamauchi, Y.: Online discussion transition analysis for group learning support. WI-IAT'22 (accepted)

評価結果|小学校での授業

- 2人一グループで活動
- グループに1台のノートPCを配置し、ブラウザから音声を取得
- キューモデルで解析

- 事数の授業でパラメータ調整用のテキストを取得
- ・ 社会の授業で取得したテキストで結果を確認
 - 0~6分:各グループで議論
 - 6~15分: 教師による全グループの現状確認
 - 15~20分: 各グループで議論

実際の会話テキストの例

エンジンのやつ付いてるよエンジン 何速 出てる マス オ」ってメーター エンジンのメーターでエンジンのメーター 4 分間時間 働いてね 見つけ合いながらここから これ もないよ変なテレビみたいなこの。大丈夫ですが。 ちょっと 一読 このぐらいだろう。 実装。 テレビみたいなやつがね テレビみたいなやつがある バッテリー式 バッテリー式 のやつがある。 よくわからん 豊田っていう

会話テキスト例から取得したWikipedia記事

- 豊田市中央図書館
- 豊田市
- 如意寺(豊田市)
- ラジコン模型自動車
- ドラゴンネスト(ゲーム)
- 古澤侑峯
- 采澤靖起

俳優や舞踊家。テレビから取得された

7個中6個(85%)が適切

評価結果|小学校での授業

- 実際の議論で取得した会話テキストを1分ごとに分割した
- 児童達の会話テキストのみを全て取り出した
 - 著者らが手動ですべてのテキストを確認した
 - すべての会話が適切に議論していた

結果

- 議論推移解析の正解率:50%
- メインテーマ解析の正解率:68%

議論

- 与えられたテキストに対しては概ね妥当な解析結果が得られた
 - ⇒ 特にW2Eデータセット上での実験結果は70~90%程度の精度

- 大人同士の会話での精度:80%程度
 - 詳細はWI-IAT2022で報告

- 実際の授業では次の対応が別途必要
 - 介入している先生の発言
 - 他のグループの会話

まとめ

- グループ学習時のモニタリング支援の手法を提案した。
- 新聞記事上での実験では、高い解析精度を得られた
- 実際の小学校での授業で会話でも妥当な解析結果が得られた

今後の課題

- 教師のモニタリング活動への影響に関する定量分析
- 学習者に与える教育効果の分析
- 本手法が有効なグループ活動の形態の分析

謝辞:本研究の実践に協力いただいた小学校の皆様、ならびにサポートいただいたグーグル合同会社に感謝申し上げます。